

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570300550		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「牧水苑」	ユニット名	5Fユニット
所在地	宮崎県延岡市北小路8-10		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4570300550&amp;SCD=320">http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4570300550&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を生かした理念を作り、実践に取り組んでいるが、掲げてある様に、一歩ずつ意識の変化はみられてきたようにある。まずは近隣へ出向き、ふれあいの機会を持つ事から取り組みを行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りではたくさんの地元住民の参加があり、入居者の方達とも交流の機会となっている。しかし入居者が地域へ出掛ける機会は増えてはきたが日常的につながり、生活をしている実感はない。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望があれば、随時受け入れて、入居者の生活ぶりや雰囲気を見て頂いている。こちらから外へ向けての活動はまだまだ十分ではないが、以前と比べ、地域へ向けてという意識はどの職員も出てきているように感じる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者状況、運営、活動の報告を毎回行い、意見やアドバイスを頂いている。回覧にて職員へも内容を伝達し、取り入れたりする事もある。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、市の担当者への協力、情報提供を行っている他、運営推進会議では取り組みについての報告を行い、疑問などはその際に随時相談を行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決め、開放への取り組みを始めた。他階への入居者の行き来は多く、特に施錠をしている事での不安出現はみられない。今後も引き続き家族の理解を得ながら、開放時間の延長への取り組みを行っていく。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について、勉強会を実施した。また、スタッフのストレスや変化へ注意を払い、虐待の起こりやすい環境を作らないように、業務の見直しを行った。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会は行っていないが、ユニット内で回覧できるように資料を設置している。今の所必要な事例はない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質問を受けるようにしている。疑問のある方には、随時説明を行い、納得が得られる様にしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を行っている。意見箱の設置をしているが、日頃の会話から、意見、要望を聞く機会もあり、一緒に対策を検討する事もある。日頃からの日常会話を十分に行い、要望を聞きやすい雰囲気作りに努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からあがった意見は随時管理者へ報告を行っている。意見箱の設置をしているが、日常的な会話の中から、意見を聞く機会が多い。必要に応じ、職員会で話し合いが行えるような仕組みが出来ている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、一時金などがあり、就業環境の整備がなされてきている。入社後資格取得をする職員も多くなってきている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修を行っている。入社後も勤務内での研修参加を勤務調整を行い参加出来る様になっている。外部研修の案内を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会へ職員も参加する機会があり、ネットワーク作りや、勉強会を行う事により、同業者との交流を図る機会を持っている。互いの取り組みを知る事で、良い刺激になっている様である。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、何度も面談を行い、情報の収集に努め、実際に見学後、入居を行ってもらっている。特に本人の環境の変化による不安へは、十分注意を払い、入居前の生活へ近い形で生活を送れる様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、何度も面談を行い、想いを聞けるように努めている。「入居するからといって、出来なくなる事はない」という事については、特に説明をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に収集した情報を元に、入居の契約時には、ケアプランの説明を行い、即日から、実施できる体制が整っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前より、共に家事や、活動を行う機会が増えた。職員の会話の中にも、入居者の入居前の暮らしぶりや、主婦の先輩として、尊敬の念を示す会話が聞かれた。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の家族との関係性を考慮しながら、定期的な状態の報告を行い、相談している。レクリエーションへの家族参加の呼びかけを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の情報収集は、入居前に十分聞き取りを行うようにしている。可能な限り出掛け、関係継続への支援に努めている。その際職員は、あまり、付き添いのにならない様配慮を行うようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の口論も見られるが、入居者同士での信頼関係も出来ている。食事の準備や下膳を手伝ったり、さりげなく椅子を引いたりとする姿もみられている。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えの際は、家族、スタッフから情報収集を行い、面会や情報提供を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のその人らしさを大切にしている。何気ない言葉の中に意向や希望が聞かれる事が多い為、会話を記録に残すようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居してからも、日頃の会話から、入居前の情報収集に努め随時書き直しを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、職員の気づきを、日々話し合い、変化や、現状の把握に努めている。有する力については、職員間でも色々な試みを行っており、把握しようとする動きがみられてきている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しの際は、本人、家族の意向を反映したものを作成するが、日々の取り組みで上手くいった事や、修正が必要な項目については、職員が、メモ程度に書き加え、見直しの際に役立てている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録様式の変更を行い、各スタッフの気づきや、工夫が見える記録の記入を行っている。様々な取り組みや、変化が見え計画の見直しへ生かされている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族の状況により、病院受診付き添いや、買い物代行も行う。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに商店街があるので買物に出かけている。市の中心部にあるので各催し物にも参加がしやすい。しかし地域にはまだ活用できる資源はあると思うので情報収集し活用するようにしたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得の上で協力医療機関との関係を築いている。訪問診療、24時間体制の医療連携体制をとっている。他科受診については、本人、家族の希望する病院へ依頼している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師の配置がある。また、訪問看護師から、入居者の健康相談や医療的ケアの関する指導、助言をおこなってもらい、連携を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、必ず家族と共に職員も付き添い、入院の際の情報提供をおこない、介護サマリーを渡している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期への方針については、家族の意向を確認してはいるが、医療の充実した事業所への住み替えを希望される家族も多い。今まで看取りを行った実績はない。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルにて周知している為、応急手当を行うことができるが、定期的な訓練は行っていない。日中・夜間緊急時の連絡体制を整備している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・自動火災報知機の設置により、火災に対する安全を確保している。年2回の防災訓練を実施しているが、地域への協力体制の整備については、取り組み続けている。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本とした声掛けを行っている。ケアする際の声の大きさ、トーンへは十分に配慮し、周囲の入居者からの注意を集めないようにしている。排泄、入浴に関しては、必要最小限のケアを行い、プライバシーの確保に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく対話をし、本人が上手く言い表せない場合でも、想いや、希望を察する様に努めている。自己決定が行えるような声掛けを行うようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の活動予定は立てず、その日、その時の入居者との会話から予定を組む事も多い。外出、買い物等外への支援も多くなったが、ゆっくりしたい入居者もあり、静かな環境を提供する等も行い、本人のペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれをするきっかけを作り、メリハリのある生活ができる様に支援している。本人、家族の希望にて訪問理容を依頼したり、本人らしい服を着てもらえるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、役割とはせず、その時の気分によって行ってくれる。入居者の能力に応じ、部分的に参加してもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を日頃から把握し、介助や、調理の際の工夫、盛り付けの工夫を行っている。また、その時の希望にてパン食を選ぶ事ができる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの習慣がある方、残渣物の多い方に関しては、毎食後の口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンに合わせた誘導を行っている。全体として尿意訴えは少なくなってきたが、汚染回数は減少してきている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や、適度な体操を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回にしているが、声掛けをし、シャワー浴を勧める様にしているが、希望者がおらず実施できていない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を行い、夜間良眠できる様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、月に2回担当入居者の薬名、用量を記録用紙へ記入し、把握に努めている。臨時に出た薬については、赤線で目印をつけ、服用期間の症状変化に注意をしている。服薬介助法についても、タイミングなど工夫を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の入居前の生活状況を十分に聴取し、好きな事が出来るようにしている。年齢的に、楽しむ事は贅沢である、と抵抗を感じる方もいるが、掃除などを行ってもらうようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の習慣のある入居者もいる為、戸外へ出掛ける機会は増えている。外出を負担に感じる入居者へ対しては、車に乗ったままの故郷訪問や、なじみの場所めぐりを行っている。家族の協力は以前より得られにくくなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	5階 ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じ、家族とも相談し、小額を自己管理してもらっている。コンビニ、スーパーでは自分でレジに並び購入してもらうが、レシートは管理し、家族へ報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話でない事もあり、声掛けを行って、電話の支援を行なっている。手紙を書く機会はあるが、今の所希望者がおらず、実践できていない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは季節感のある飾り付けを行うようにしている。見て、さわり、入居者同士の話すきっかけとなることもある。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置。廊下でお茶を飲んだり、隣に座る他入居者とスキンシップをとる姿がよく見られる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅で使っていた物を持参して頂く様説明をしているが、居室の広さにより、置ける物が限られ、なかなか家族の理解が得にくい所もある。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、食堂へは目印を設置し、分かるようにしている。また、入居者の動きを観察し、食堂入り口扉をはずし、手すりを設置した。入り口での急な方向転換が安全に出来るようになった。			